

連携室
だより

2021年のご挨拶～総合診療科を開設しました
総合診療科部長就任のご挨拶
今後の当院における産婦人科診療について
新型コロナウイルス感染症の対応について
当院のZoomについて
医療支援センター 退院支援係の紹介
高度医療機器の共同利用について
医療連携の集いのお知らせ

人事消息



新任医師

令和3年1月1日付
総合診療科
山崎 弘資



新任医師

令和3年1月1日付
脳神経外科
和田 始

退職者

令和2年12月31日付
産婦人科
林 なつき

令和3年1月31日付
腎臓内科
松久 優雅

理念

赤十字の基本理念に基づき、個人の尊厳および権利を尊重し
質の高い医療を提供します

基本方針

- 1.患者さまの人権と意思を尊重した病院環境をつくります
- 2.急性期医療を中心にして診療を進めます
- 3.救急医療の充実に努めます
- 4.地域の医療機関等との連携を推進します
- 5.国内外の災害時の医療救護活動に貢献します
- 6.職員の教育、研修を充実させます
- 7.健全経営に留意して、その結果を社会に還元します

私たちは患者さまの権利を尊重します

適切に医療を受ける権利

医療に関して知る権利

医療行為を自分で選ぶ権利

プライバシーを保障される権利

人権を尊重される権利

セカンドオピニオンを受ける権利

旭川赤十字病院職員行動規範 5つの約束

- 1.私たちは、来院される方と職員に笑顔であいさつをします
- 2.私たちは、初対面の患者さまに、自己紹介をします
- 3.私たちは、電話の最初に、部署と名前を名乗ります
- 4.私たちは、患者さまに診察や説明をしたあとに「何かわからないことやご質問はありませんか?」とお尋ねします
- 5.私たちは、院内で迷われている皆様にお声掛けをし、ご案内します

編集後記

今回は、当院の共同利用についてご紹介させていただきました。この機会にご活用いただければ幸いです。ご不明な点等ございましたら、お気軽に地域医療連携室へお問い合わせください。

発行

旭川赤十字病院 地域医療連携室

〒070-8530 北海道旭川市曙1条1丁目1番1号
tel.(0166)22-8111(代表) fax.(0166)22-8287(直通)
URL <https://www.asahikawa.jrc.or.jp/> Email renkei@asahikawa.jrc.or.jp



2021年のご挨拶～総合診療科を開設しました



旭川赤十字病院
院長 牧野 憲一

2020年は新型コロナウイルス感染症に翻弄された年でした。このようなことが21世紀の日本で起きるとは全く想像していませんでした。まさに世界を巻き込んだ災害とも言えます。新型コロナウイルス感染症は否応なく病院にも入り込みました。旭川赤十字病院でも感染者がでて、病院機能の一部を停止することになりました。これからも同様に院内で感染者が出ると考えています。残念ながらそれは防ぎようがありません。しかし、感染者が一人出たとしても、それを拡げない為の対策が重要であることを痛感しました。今後は病院機能を常に維持できるよう対策を強化してまいります。そして地域の皆様、地域の医療機関にご迷惑をかけないよう全力で取り組んでまいります。

旭川赤十字病院は、2021年1月北海道赤十字看護大学教授の山崎弘資先生をお迎えして総合診療科を開設いたしました。総合診療科は旭川赤十字病院の新たなgatewayとして「病院への紹介が必要だが紹介すべき診療科が特定できない」「診療科はある程度予測しているが専門科への紹介が適切かどうか疑われる」など従来旭川赤十字病院では対応出来ていなかった分野に対応することを目的としています。今まで専

門分化した診療体制のみでしたが、その隙間を埋める役割を果たします。敷居の低い紹介窓口として位置づけています。受付時間は午後3時までとなっていますので、午前中に各医療機関を受診した患者さんを当日のうちに紹介頂く事も可能です。総合診療科では紹介頂いた患者さんを必要に応じて専門診療科に引き継ぐこともありますし、総合診療科として診療を完結する場合もあります。旭川赤十字病院の新たな窓口としてご利用下さい。

また、旭川赤十字病院では脳神経(脳卒中)診療をさらに強化しました。12月まで旭川医科大学脳神経外科にて血管内治療を行っていた和田始先生を迎えました。和田先生は脳血管内治療指導医でありこの分野の第一人者です。旭川赤十字病院の脳神経(脳卒中)診療体制が一層充実し、この地域での診療に貢献できるものと考えています。旭川赤十字病院では昨年より脳神経(脳卒中)ホットラインを開設しており24時間脳神経外科専門医が対応しています。患者さんの紹介から相談までご利用ください。

旭川赤十字病院は地域から信頼され求められる医療機関として、地域の医療機関を支えてまいります。今年もよろしく願いいたします。

総合診療科部長就任のご挨拶



総合診療科部長
山崎 弘資

この度の旭川赤十字病院総合診療科部長就任にあたり関係各位の皆様にご挨拶申し上げます。

これまで旭川赤十字病院総合診療科は火曜日および金曜日みの診療を行ってまいりましたが、牧野憲一院長、長谷部千登美副院長のご尽力により2021年1月初旬、月曜日から金曜日まで一週間を通した本格運用が開始される運びとなりました。月曜日から木曜日(金曜日)までは私が担当し、金曜日はこれまで通り関谷千尋先生にご担当いただきます。関谷先生の御指導、御助言も賜りながら、総合診療科の運営を行ってまいりたいと思っております。私は1983年に旭川医科大学を卒業し、専門は食道、呼吸器、乳腺、がん化学療法ですが、旭川医科大学病院、釧路市立病院、留萌市立病院、札幌ことに乳腺クリニック、北見赤十字病院等で、呼吸器、循環器、消化器、内分泌、小児領域を含む外科全般の臨床に携わってまいりました。また、乳癌診療ガイドラインの作成に当初から関わり、乳癌薬物療法のガイドラインを一般に紹介する過程で、EBMの普及にも努めてまいりました。この度総合診療科を担当するにあたり、浅学菲才の身ではありますが、

各医療機関と当院が誇る各専門診療科との間の橋渡し役を担うよう努めてまいります。関係各位の皆様にはご高配を賜りますようお願い申し上げます。

旭川赤十字病院
総合診療科のご案内

何科に紹介したら
良いかわからない…

総合的に
診てほしい…

2021年(令和3年)1月開設
月曜日～金曜日(祝休日を除く)

受付時間 8時30分～15時00分

【予約に関するお問い合わせ先】
〒070-8530
北海道旭川市曙1条1丁目1番1号
旭川赤十字病院 地域医療連携室
電話 0166-22-8111 (代表)



今後の当院における産婦人科診療について

こんにちは旭川赤十字病院産婦人科の中田です。

当院産婦人科についてお話いたします。

昨年2020年度は玉手、中田、宮川、林と2人の男性医師と2人の女性医師の計4人で、分娩を含め産婦人科診療を行ってまいりました。

2020年は分娩数94件(うち帝王切開17件)、流産などの産科手術を除く婦人科手術150件でありました。当院産婦人科は旭川医科大学産婦人科医局からの医師の派遣を受けておりますが、昨年6月に旭川医科大学産婦人科学講座に加藤育民教授が就任され、新教授の元に新たな産婦人科医局体制となりました。

昨今、分娩数が減少してきており、そのため旭川周辺における周産期施設の改革が考慮され、旭川医科大学を中心として(周産期センター構想)周産期の集約化が模索されております。そのため、分娩数の少ない当院の産科を大学に集約することとなり、昨年12月いっぱいまで分娩の取り扱いを終了することとなりました。12月いっぱいまで医師一人が大学へ戻りました。

また、昨年12月に旭川厚生病院での新型コロナウイルスクラスターが発生し、厚生病院で管理中の妊婦・婦人科患者様が市立旭川病院、当院、旭川医科大学病院へ振り分けられることとなったのはニュース報道などでご存知かと思われます。

現在、旭川の新型コロナウイルスは終息に近づきつつあります。しかし、当院産婦人科体制は予定通りであり、3月いっぱいまで玉手医師が定年退職、およびもう一

人の医師が旭川を離れることとなり、次年度4月からは私の一人体制となる予定です。しかしながら今まで当院産婦人科を支えてきた玉手医師も臨時職員という形でフルタイムではありませんが、引き続き診療にあたっていただけることとなりました。

これからは救急外来を含めた婦人科診療に今まで通りに対処することは困難と思いますが、定期外来(婦人科手術等)を含めて出来る範囲で診療を続けていきます。新規患者様の診療についても今まで通りで継続予定です(上記夜間対応などは困難となります)。今後も引き続き、患者様のご紹介は地域医療連携室を通していただければ幸いです。

以上、今後の婦人科体制についてご報告いたしました。何か質問などございましたら連絡をいただければ幸いです。



第二産婦人科部長
中田 俊之

新型コロナウイルス感染症の対応について

新型コロナウイルス専用病棟 看護師長 鈴木 智子

当院では、2020年2月26日より新型コロナウイルス感染症(以下、COVID-19)の患者の受け入れを開始し、患者数の増加に備えてICU4床を専用化し、一般病棟の改編を行い、8月1日より22床のCOVID-19専用病棟を新設しました。看護体制は、各部署から院内キャリア開発ラダーⅢ認定者、かつCOVID-19病棟を志望した看護師21名、看護助手1名が配置されています。

11月に入り北海道内の感染者が増加し、11月3日に旭川初のクラスターが確認後、市内医療機関の大規模クラスターが発生しました。ここから基幹病院としての本格的なCOVID-19患者の受け入れがスタートしました。介護を必要とする患者が急増し、さらに季節性ウイルス感染症の流行期に入り疑似症患者の増加も著しく、一時的に満床となる日々が続きました。看護スタッフの負担の増大に加え、慎重な注意を必要とする緊張感と感染に対する不安によってストレスと疲労もピークに達していきました。しかし、多くの制限がある環境下においても、病室内で可能な機能低下防止ケアの工夫や終末期にある患者の家族へのケアなど、個別的ケアの提供に努めています。スタッフは患者の命を守る使命感を持ち、日々、看護師としての貴重な経験を積み重ねています。

写真では、UV-C紫外線照射システムを用いた病室内消毒、そして、病室内の陰圧化と空気清浄化が可能な簡易型陰圧システムHEPA空気洗浄機の設置について紹介いたします。

未だ収束の兆しが見えない現状ですが、「スタッフの安全を最優先にしながら患者に最善のケアを提供すること」を目標に、これまで培ってきた経験と知識を活かしながら、患者・家族一人ひとりに丁寧に向き合っていきたいと思っております。



UV-C紫外線照射システムによる病室消毒



簡易型陰圧システムHEPA空気洗浄機の設置

当院のZoomについて デジタル推進室 室長 阿部 直之

COVID-19の影響で、online meetingの波は当院にも一気に押し寄せてきました。当院のonline meeting toolはZoomを採用しております。無料版でのテストを繰り返し、昨年7月より有料のProライセンスを購入し順調に運用されています。有料のProライセンスでは、無料版で設けられている3名以上でのミーティングの時間制限がなくなり、最大100名のミーティングを24時間開催することが可能となりました。またオンデマンド配信が可能となっているため、当日ライブで参加できなかったユーザーにも、後日自宅等での聴講が可能となります。さらに昨年の12月からはウェビナー機能を追加し、最大500人までの配信が可能となりました。このため院内外を問わず、より多くの方々と情報を共有することが可能となってきています。このような時代となり、連携病院のみならずと直接お会いできる機会が減っておりますが、Zoomで少しでも絆を深めることができると、微力ながらお手伝いしていきたいと思っております。なお、ご不明な点が

ございましたら、お気軽に旭川赤十字病院デジタル推進室までご相談ください。



1月4日に当院講堂で行われた新春幹部職員研修会。三密を避けるため、会場内の参加者を最小限にとどめ、126台の端末を結びハイブリッド方式で開催された。多くの職員はWebでの参加となった。

医療支援センター 退院支援係の紹介 医療支援センター 入退院支援室退院支援係長 原田 理恵

入退院支援室には入院支援係(入院支援コーナー)、相談支援係、療養支援係、退院支援係の4つの係があります。今回は保健師3名、看護師2名が在籍する退院支援係をご紹介します。

退院支援とは患者が自分の病気や障害を理解し、退院後も継続が必要な医療や看護を受けながらどこで療養するか、どのような生活を送るのかを自己決定するための支援です。私たちは患者の自己決定を実現するために、患者・家族の意向を踏まえて社会保障制度や社会資源につなぐなどの調整をしています。

具体的な仕事の流れは、入退院支援スクリーニングシートによる支援必要者の把握と介入事項を確認します。そして7日以内に病棟と退院支援カンファレンスを行い、医療・看護上の課題と生活・介護上の課題を包括的にアセスメントして退院の方向性を確認します。患者・家族との面談(意思決定支援)を繰り返しながら、多職種と連携し退院支援合同カンファレンスを開催し、療養環境の準備・調整に入ります。関わったケースでは 自宅で過ごしたいが周りに迷惑かけると躊躇されている方や医療ニーズが高く自宅は最初

から無理とあきらめている方がいました。患者・家族と話し合い 訪問診療、訪問看護、ケアマネージャー等と療養環境を調整し、住み慣れた地域に戻り看取りにつながったケースもあります。

自宅に帰りたけれど無理かな?と迷っている方がいらっしゃるなら是非ご相談ください。私たち一同、患者・家族の思いを汲み取り、自宅や地域で自分らしく過ごせるよう支援させていただきます。



高度医療機器の共同利用のご案内

当院が所有する医療機器を地域の先生方に活用していただくことを目的に、高度医療機器の共同利用を行っております。当院で検査のみを行い、検査結果と放射線科医の読影レポートを原則検査翌日に依頼元の医療機関へ発送しております。また、異常があり緊急対応が必要な場合、当院で処置し、依頼元へ直ちに結果報告を行っております。

さらに、たいせつ安心医療ネット(*1)を利用していただくと、検査実施後に画像データ・読影レポート等の検査結果を閲覧することができます。

当院の高度医療機器を活用し、地域の先生方にお役立ていただければ幸いです。是非、この機会に共同利用をご活用ください。

(*1)たいせつ安心医療ネットは、旭川市医師会が運営する地域医療ネットワークシステムです。

●共同利用件数

	CT	MRI	RI	エコー	生理機能検査
2020年4月	14	3	2		
2020年5月	11	11	4	1	2
2020年6月	17	8	3	1	
2020年7月	27	11	3	1	
2020年8月	25	5	6		2
2020年9月	25	11	9	3	1
2020年10月	25	17	1	4	2
2020年11月	19	7	3	1	
2020年12月	9	6	6	2	
2021年1月	9	7	5		
合計	181	86	42	13	7



共同利用の解説や申込方法につきましては、当院のホームページに掲載しております。
ホーム>医療関係の方へ>地域医療連携室>高度医療機器の共同利用について
(アドレス)https://www.asahikawa.jrc.or.jp/iryoustaff/tiki-link/medicalequipment/

2020年度 旭川赤十字病院医療連携の集い 中止のお知らせ

地域医療連携室 室長 篠田 珠美

今年度予定していた第22回医療連携の集いは、新型コロナウイルス感染症の影響により、開催を中止といたします。ご理解の程よろしくお願い申し上げます。